

興津・志和地域 防災便り 第13号

2011(平成23)年1月23日

興津地域ぐるみ学校安全体制整備推進委員会
志和地区自主防災組織

「土砂災害に対する教育プログラム」

の2年目の取り組みがはじまりました

12月6日 「興津小学校土砂災害に関する授業④」



いよいよ、土砂災害の授業も4回目目最後となりました。今回はいままでのまとめの授業です。まず、おさらいもかねて興津のMAPに、自分の家・避難場所・砂防ダムとようへきのある場所を色別のシールで記していきます。

そして、大きな地図へ班で確認しながら、印を付けていきます。そして、自分の家をしるしをつけて、大雨が降った場合、自分の家は安全なのか？安全でないのか？どうして安全でないのか？もし避難するならどの避難所に避難するか意見を出しあいました。その意見をもとに、どの順路で避難すると安全か、またそのまま家にいると本当に安全なのか？土砂災害が起こりそうな場所など、



情報交換しながらみんなの意見も参考にして確認していきます。



3回目の授業のおさらい「雨の状態でどんな行動をとるのか？」を、さいころを振って自分が貼り付けるカードを決め自分で決めていきます。

前回の学習が活かされていて、スムーズに行動が決まっています。

そして、1回目の授業で質問した内容をもう一度質問してみます。

問1：昨日から大雨が降り続いていて、山の方からゴロゴロと変な音が聞こえてきました。あなたは一人で家にいます。

お母さんは買い物、お父さんは会社に行っています。

(1) 家で家族を待つか？(2) またそれはどうしてですか？

問2：朝4時、聞いたこともないような雨音が目が覚めました。町内の放送が聞こえたような気もしましたが、雨音が強くてよく分かりません。家族はぐっすり眠っています。

(1) とりあえず親を起こすか？(2) またそれはどうしてですか？

と言う質問です。さて、みんなの考えはどうなったでしょうか？

最後は、自分の考えをホワイトボードにまとめて発表していききました。4回の授業で学んだことを含めて1回目の考え方が変わった人もいれば、変わらなかった人もいました。どちらの意見も知識を得て考えた結果ですので、間違いではありません。

ただ、意見の中に「朝4時に起こすと怒られる」という意見が数名ありました。

参加者との意見交換の中で、「怒られないように最初に異変に気がついたら、起こすかもしれない。」と言うことを家族で話し合っている。怒られたりしないねという意見があり、やっぱり家族の会話が災害を乗り切る重要な鍵を握っているようです。最後に、おまけとして「人の意識」のお話がありました。



数年前に実際にあった、韓国大邱(てぐ)市の地下鉄火災の事例です。

駅に火災が起きている列車が入ってきたが、先に停車している列車の人たちは、煙が充満してきても避難しなかった。という話です。

原因は「私だけは大丈夫」「みんないるから大丈夫」という考えが働き、逃げなかったと考えられています。

これは、「正常化の偏見」という考えで、いやなことや都合の悪いこと等「認めたくない情報」



を「まさか、大丈夫。みんないる」からと「認めやすい情報に変える」という誰でも持っている考え方です。

この考えは、防災にも当てはまり、「自分だけは大丈夫」「みんながいるから大丈夫」と考えがちです。

実際は危ないかもしれないのに、都合の良いように考えてしまうのですね。

危険なことが起こりそうだと感じたら、情報を集めて自分自身で考えて避難することが大切です。

最後は、参加して下さった地域の方々や土木事務所の関係者の方に授業の感想をいただきました。

大雨でも聞こえるような町内放送の工夫や、家族との普段からの話し合いが大切など、いろいろご意見いただきました。

平成23年2月6日(日)に興津小学校で学習発表会と防災シンポジウムを開催します。

4回の授業も含め、今年学習した

土砂災害の学習と、今まで学習してきた地震・津波に関する学習の

まとめを発表する予定となっています。

これから児童たちは発表に向けて、とりまとめをおこない・発表の練習をしていきます。

ぜひ、学習発表会と防災シンポジウムに参加して頂き、児童の成長を見守って頂けたら嬉しく思います。



しあわせ防災マップづくり

四万十町立志和小学校の取り組み



志和小学校では、志和地区自主防災組織の取り組みの一つとして、「しあわせ防災マップづくり」に挑戦しました。

これは、5・5年生3名が地区を回って海抜標識をもとに、自分たちの地域を知るため

に実施したものです。今後起こりうる南海地震に備えてどう逃げたらいいのか、どこが安全なのかを子ども達の手で調べました。

海抜標識を手がかりに、地域の高低差も感じた子ども達は、志和の道路は道幅が狭い所が多いことなども知り、安全に避難することの大切さを改めて感じたと感じています。

このマップは、志和地区に全戸配布する予定で、避難時に役立てればと考えています。

マップづくりの他、子ども達のことばで描いた「防災カルタ」も制作中です。

